

東京建具協同組合 平成28年新年賀詞交歓会

業界の維持継続に向け、人材育成と対価設定を

東京建具協同組合（岡村宣勝理事長）は1月21日、東京都港区の明治記念館にて平成新年賀詞交歓会を開催した。

今年には交歓会の開催が国会の開催と重なったため、公務で途中退席をしなければならぬ柿沢未途衆議院議員が主催者代表の挨拶に先がけて



挨拶する岡村理事長

来賓祝辞を述べた。柿沢議員は「国立競技場の建て替え案も木を用いたものとなった。オリンピックを契機に、日本の誇るべき伝統文化を世界にアピールすることで経済の上昇、好循環につながる。そのためには皆様のようない業界の活躍を後押しするような政治を実現していきたい」と挨拶を述べた。

続いて、主催者を代表して岡村理事長が挨拶。「日本経済は脱デフレを目指した結果、円安株高が進み、物価もマイナス圏を脱するなど一定の効果があったが、消費税増税を機に個人消費の落ち込みや中国経済の減速もあり、経済の再生は道半ばにある。建具業界は繁忙期と閑散期が鮮明に分かれ、全体的には低調な一年であったが、昨年の中間決済では組合収支が大幅黒字となり、その後も資材の売上が順調に推移しており、今期も黒字になると予想している。

我々が将来もこの仕事を続けていくには社会保険に加入し、人材を確保し、技術や生産力を維持しなければならぬ。我々の仕事は十分に価値のあるものであり、その対価は自信を持って強気に設定しなければならず、それを押し通すことが大切となる」と昨年を振り返りつつ、新年を向かえての抱負を語った。

感謝状・記念品の贈呈では、長年の技能検定功労で東京都知事感謝状が贈られた杉村幹夫氏に記念品を贈呈。続いて第53回技能五輪で金メダルを受賞した安達将伍氏に金一封と記念品が贈呈された。

来賓祝辞では東京都職業能力開発協会の杉本久雄技能検定部長、東京都中小企業団体中央会の木部明情報課長、㈱商工中金神田支店の関原裕之支店長が挨拶。杉本技能検定部長は「職人の仕事は金を追うことではなく、仕事をする事によって金の

ほうが追いかけてくるものだ」と伺ったことがある。どんな状況でも、ものづくりに対する心を忘れてはならない。日本は品質の高さを世界から信頼されている存在ということを肝に銘じて仕事に取り組んでほしい」と、ものづくりにおける意識の高揚を促した。本部情報課長は「東京オリンピック・パラリンピックの経済効果は25兆円から30兆円と試算されている。こうした経済の好循環を皆様が享受できるように、その支援に私共も取り組んでいきたいと思う。私共は東京都に働きかけ、小規模事業者の持続化支援事業の補助金が創設されました。是非ご活用いただきたい」と中央会が進める各種支援事業を奨励した。関原支店長は「申年は様々なものが伸びる。年であるといわれている。組合員皆様のご商売が天に向う木々のように伸び、実を結ぶことをお祈りする」と挨拶を述べた。

乾杯発声は全国建具組合連合会の太田明副会長が務めた。号令のもと参加者全員が唱和して祝宴を開始。各人歓談の後、今井長平相談役の手締め、岡田弘一副理事長の閉会の挨拶で新年賀詞交歓会は終了した。